令和４年度 有機農業調査（アンケート）
結果報告書

令和５年３月

産業経済部農林振興課

目次

１．調査の概要
（１）調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（２）調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（３）調査の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（４）回答件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（５）留意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２．調査結果（消費者）
（１）年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（２）性別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（３）世帯構成（人数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（４）居住地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（５）「有機（オーガニック）」の言葉の認知度・・・・・・・・・・・・・・5
（６）「有機（オーガニック）」の言葉の情報源・・・・・・・・・・・・・・5
（７）有機食品の利用頻度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（８）食品購入の意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（９）有機食品の主な購入（または入手）先・・・・・・・・・・・・・・・7
(10) 購入経験のある有機食品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
(11) 毎月の有機食品に利用している金額・・・・・・・・・・・・・・・・・8
(12) 有機食品のイメージに最もあてはまるもの・・・・・・・・・・・・・・9
(13) 食品を購入する際に最も重視すること・・・・・・・・・・・・・・・・9
(14) その他意見（自由記述）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
３．調査結果（生産者）
（１）年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（２）経営形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（３）化学合成農薬や化学肥料の低減に向けた取組・・・・・・・・・・・・17
（４）実践する取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（５）今後の有機農業の意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
（６）有機農業の取組を増やすために必要と考えること・・・・・・・・・・18
（７）販売先と需要と供給のバランス・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
（８）有機 JAS 認証に対する考え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
（９）有機農業の推進に必要と考える方策・・・・・・・・・・・・・・・・20
(10) 有機農業に取組む上での課題、要望等（自由記述）・・・・・・・・・・21

１．調査の概要

（１）調査の目的

市内の有機農業の生産者消費に関する現状等を明らかにするとともに、その調査結果を農業施策等に役立てることを目的に、アンケート調査を実施したものである。

（２）調査の方法

消費者向けアンケートは、丹波市公式 Facebook・LINE・ホームページを用いて、アンケートの調査案内を発信し、自治体専用デジタル化総合プラットフォーム「LoGo フォーム」のアンケート機能を用いて実施した。

生産者向けアンケートは、市内の有機 JAS 認定農家及び農の学校卒業生等を対象に、アンケートの調査内容を案内し、自治体専用デジタル化総合プラットフォーム「LoGo フォーム」のアンケート機能を用いて実施した。

（３）調査の期間

令和４年 12 月 9 日（金）～令和４年 12 月 28 日（水）　20 日間

（４）回答件数

消費者向けアンケート　286 件

生産者向けアンケート　38 件

（５）留意事項

本文中の設問の選択肢及び自由記述について、文字数が多いものは簡略化している場合がある。また、各項目の構成比について端数処理を行っているため、合計が 100％にならない場合がある。

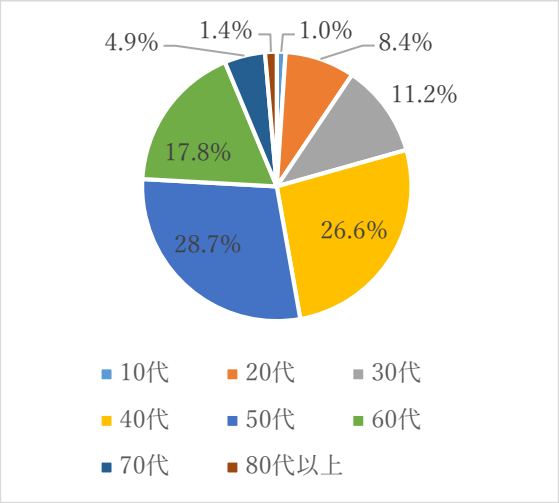
回答者が「その他」を選択した場合で、「その他」の内容についての記述から他の選択肢に合致すると判断できる場合は、「その他」ではなく該当選択肢での回答としている場合がある。

２．調査結果（消費者）

（１）回答者の年齢（選択式）

回答者の年齢は、40 代から 50 代までが全体の 55.3%となり、特に最も回答の多い 50 代が 28.7%であった。30 代と 60 代を含めると、全体の８割以上だった。

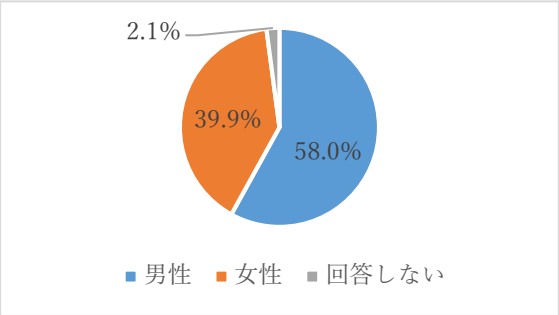
項目	回答数	割合
10代	3	1.0%
20代	24	8.4%
30代	32	11.2%
40代	76	26.6%
50代	82	28.7%
60代	51	17.8%
70代	14	4.9%
80代以上	4	1.4%
合計	286	

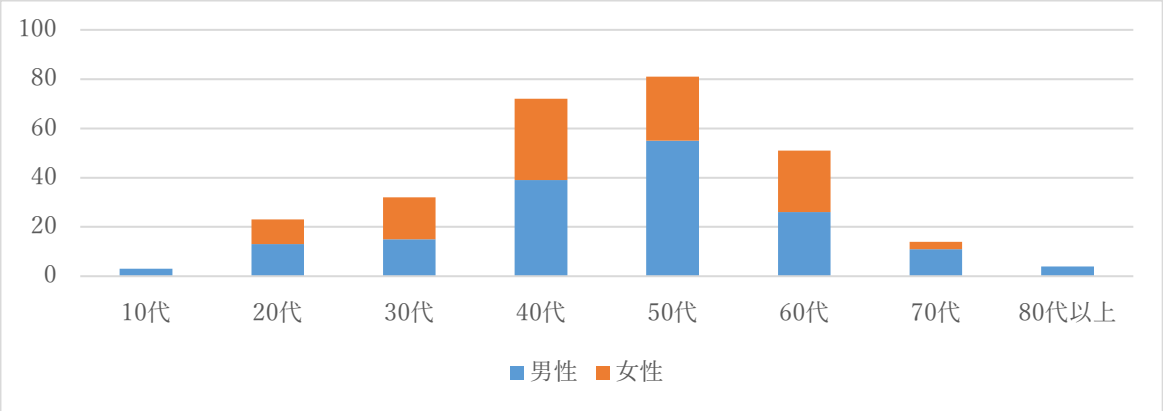


（２）回答者の性別（選択式）

回答者の性別は、およそ６割が男性であり、30 代～60 代の男性で 135 人と、全体の半数近くを占めた。

項目	回答数	割合
男性	166	58.0%
女性	114	39.9%
回答しない	6	2.1%
合計	286	

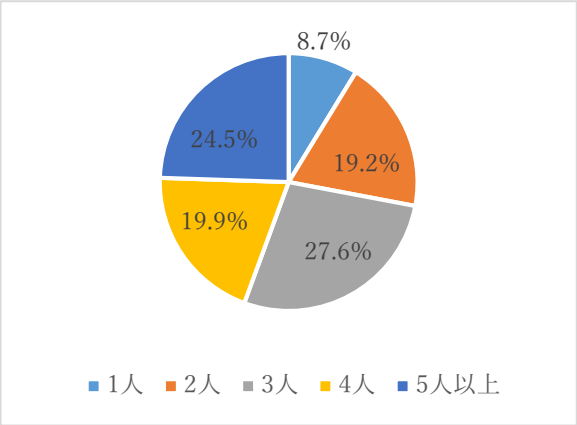




（３）回答者の世帯構成（人数）（選択式）

回答者の世帯構成は、「３人世帯」が 27.6%で最も多く、続いて、「５人以上世帯」が 24.5%、「４人世帯」が 19.9%、「２人世帯」が 19.2%となった。

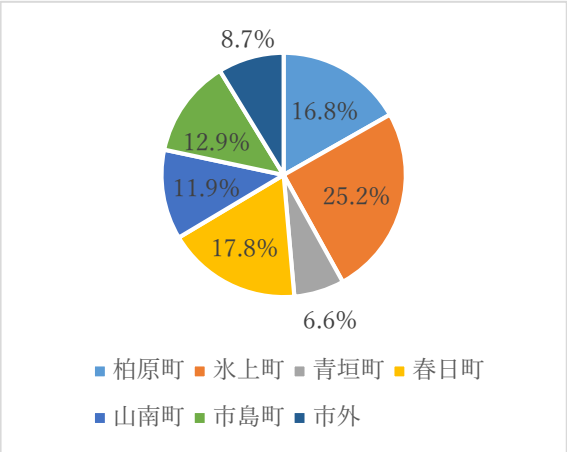
項目	回答数	割合
1人	25	8.7%
2人	55	19.2%
3人	79	27.6%
4人	57	19.9%
5人以上	70	24.5%
合計	286	



（４）回答者の居住地（選択式）

回答者の居住地は、「氷上町」が 25.2%で最も多く、続いて、「春日町」が 17.8%、「柏原町」が 16.8%、「市島町」が 12.9%、「山南町」が 11.9%、「青垣町」が 6.6%となった。

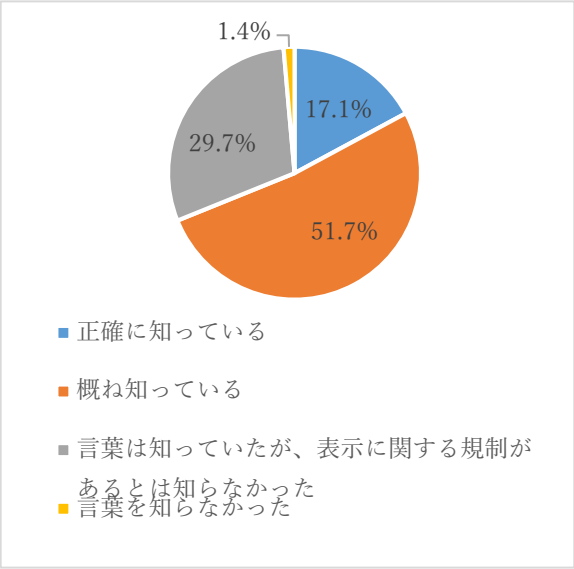
項目	回答数	割合
柏原町	48	16.8%
氷上町	72	25.2%
青垣町	19	6.6%
春日町	51	17.8%
山南町	34	11.9%
市島町	37	12.9%
市外	25	8.7%
合計	286	



（５）回答者の「有機（オーガニック）」の言葉の認知度（選択式）

回答者の 98.5%は、有機（オーガニック）の言葉を認知しており、「正確に知っている」「概ね知っている」と答えた回答者は、68.8%だった。続いて、「言葉は知っていたが、表示に関する規制があるとは知らなかった」と答えた回答者は 29.7%だった。

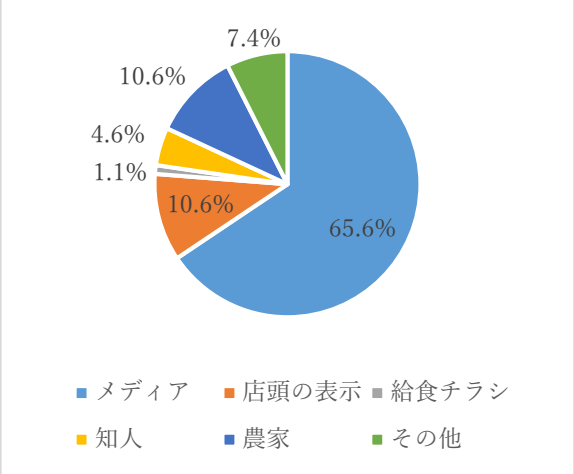
項目	回答数	割合
正確に知っている	49	17.1%
概ね知っている	148	51.7%
言葉は知っていたが、表示に関する規制があるとは知らなかった	85	29.7%
言葉を知らなかった	4	1.4%
合計	286	



（６）回答者の「有機（オーガニック）」の言葉の情報源（選択式）

回答者の有機（オーガニック）を認知した情報源は、「メディア」が 65.6%で最も多かった。続いて、「店頭の表示」が 10.6%、「農家」が 10.6%だった。

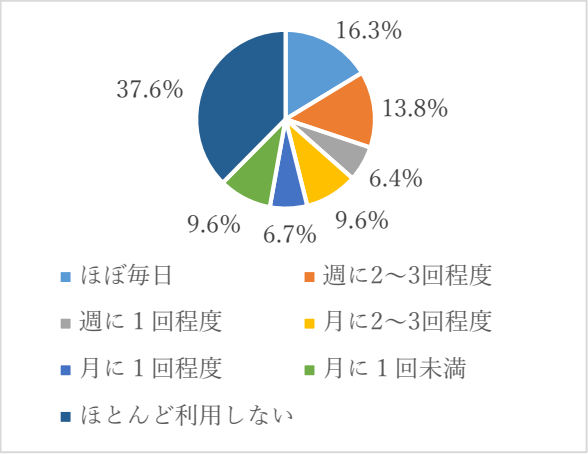
項目	回答数	割合
メディア	185	65.6%
店頭の表示	30	10.6%
給食チラシ	3	1.1%
知人	13	4.6%
農家	30	10.6%
その他	21	7.4%
合計	282	



（７）回答者の有機食品の利用頻度（選択式）

回答者の有機食品の利用頻度は、「ほとんど利用しない」は 37.6%で最も多かった。続いて、「ほぼ毎日」は 16.3%、「週に 2～3 回程度」は 13.8%であった。

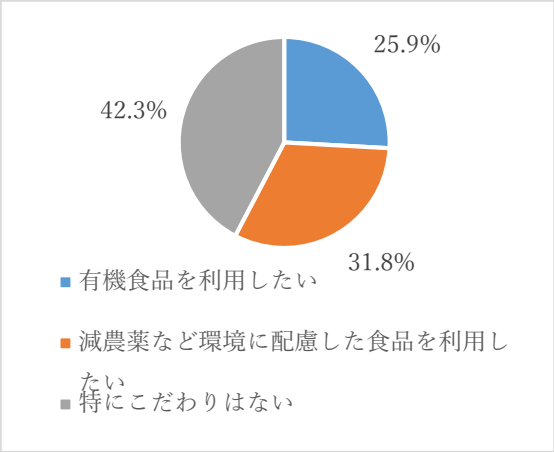
項目	回答数	割合
ほぼ毎日	46	16.3%
週に2～3回程度	39	13.8%
週に１回程度	18	6.4%
月に2～3回程度	27	9.6%
月に１回程度	19	6.7%
月に１回未満	27	9.6%
ほとんど利用しない	106	37.6%
合計	282	

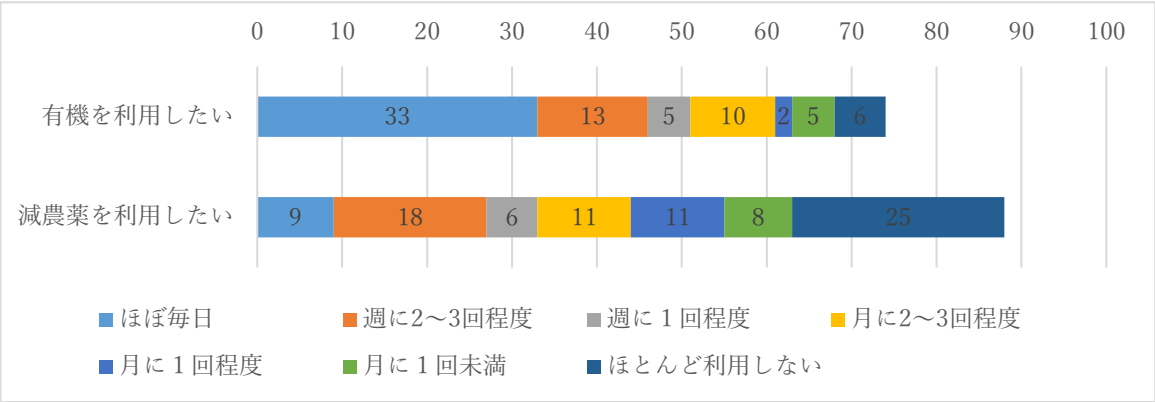


（８）回答者の食品購入の意識について（選択式）

回答者の食品購入の意識は、「特にこだわりはない」が 42.3%で最も多かった。続いて、「減農薬など環境に配慮した食品を利用したい」は 31.8%、「有機食品を利用したい」は 25.9%であった。「有機食品を利用したい」と回答した回答者のうち週１回程度以上有機食品を利用している回答者は 68.9%であった。

項目	回答数	割合
有機食品を利用したい	74	25.9%
減農薬など環境に配慮した食品を利用したい	91	31.8%
特にこだわりはない	121	42.3%
合計	286	



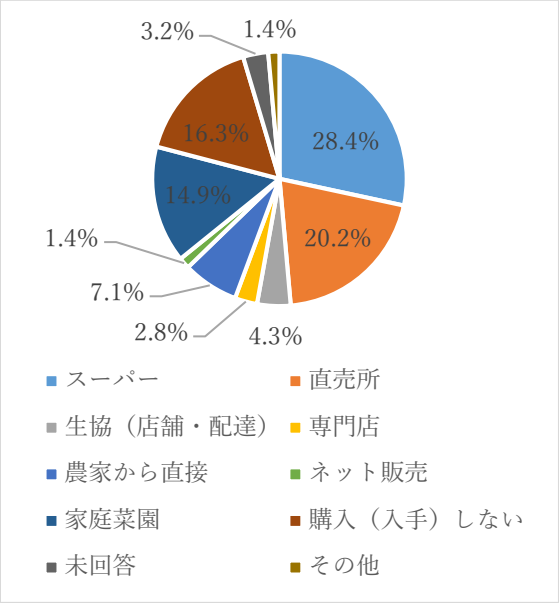


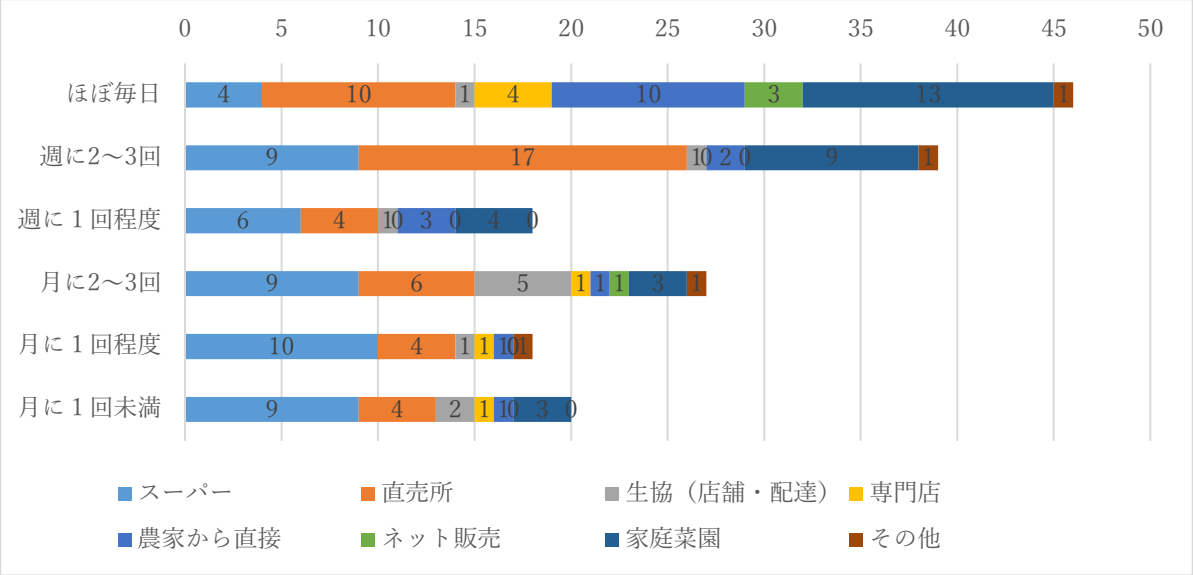
（９）有機食品の主な購入（または入手）先（選択式）

回答者の有機食品の主な購入（または入手）先は、「スーパー」が 28.4%で最も多かった。続いて、「直売所」が 20.2%、「家庭菜園」が 14.9%であった。

回答者の有機食品の利用頻度別の主な購入（または入手）先では、ほぼ毎日利用している回答者では、「農家から直接」が最も多く、続いて「直売所」「家庭菜園」が多かった。週に２～３回利用している回答者では、「直売所」が最も多く、週に１回程度以下の利用頻度の回答者では、「スーパー」が最も多かった。

項目	回答数	割合
スーパー	80	28.4%
直売所	57	20.2%
生協（店舗・配達）	12	4.3%
専門店	8	2.8%
農家から直接	20	7.1%
ネット販売	4	1.4%
家庭菜園	42	14.9%
購入（入手）しない	46	16.3%
未回答	9	3.2%
その他	4	1.4%
合計	282	

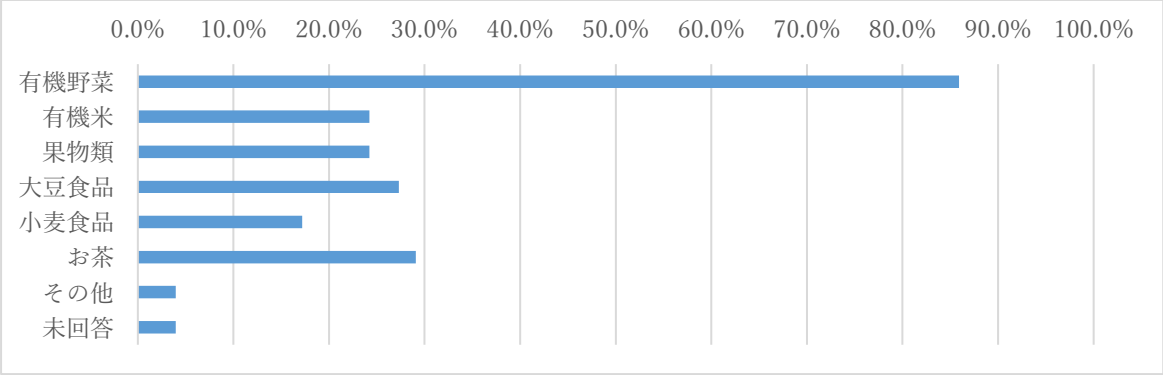




（10）購入経験のある有機食品（複数選択式）

前問有機食品の主な購入（または入手）先で「購入（入手）しない」「未回答」とした回答者以外の回答者の購入経験のある有機食品は、「有機野菜」が 85.9%で最も多く、続いて、「大豆食品」が 27.3%、「有機米」「果物類」が 24.2%であった。

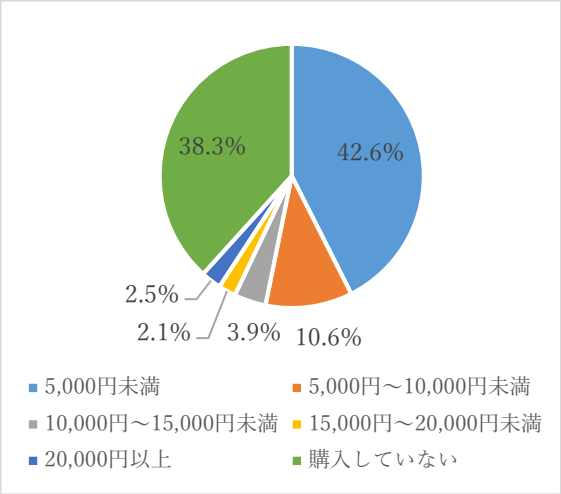
項目	回答数	割合
有機野菜	195	85.9%
有機米	55	24.2%
果物類	55	24.2%
大豆食品	62	27.3%
小麦食品	39	17.2%
お茶	66	29.1%
その他	9	4.0%
未回答	9	4.0%



（11）毎月の有機食品に利用している金額（選択式）

回答者の毎月の有機食品に利用している金額は、「5,000 円未満」が 42.6%で最も多く、続いて、「5,000 円～10,000 円未満」が 10.6%、「10,000 円～15,000 円未満」が 3.9%であった。

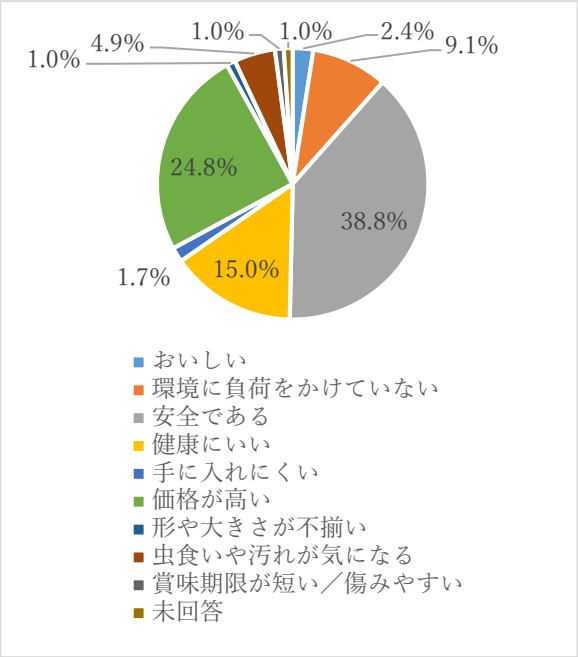
項目	回答数	割合
5,000円未満	120	42.6%
5,000円～10,000円未満	30	10.6%
10,000円～15,000円未満	11	3.9%
15,000円～20,000円未満	6	2.1%
20,000円以上	7	2.5%
購入していない	108	38.3%
合計	282	



（12）有機農産物のイメージに最もあてはまるもの（選択式）

回答者の有機農産物のイメージに最もあてはまるものは、「安全である」が 38.8%で最も多く、続いて「価格が高い」が 24.8%、「健康にいい」が 15.0%であった。

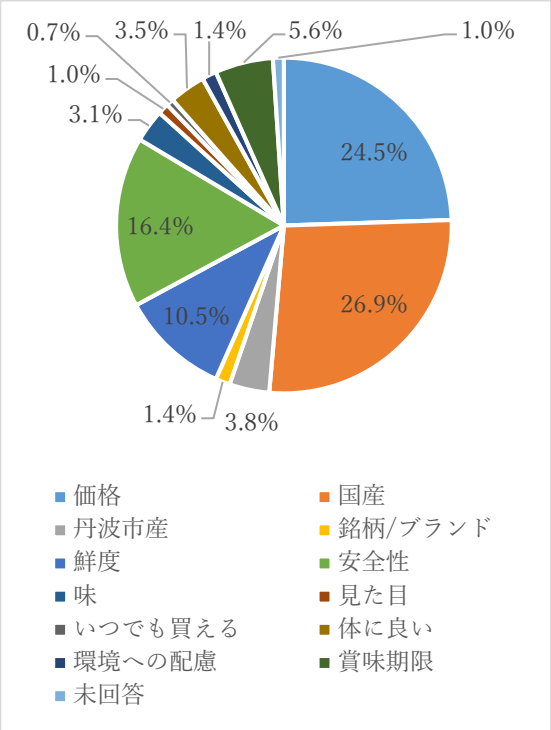
項目	回答数	割合
おいしい	7	2.4%
環境に負荷をかけていない	26	9.1%
安全である	111	38.8%
健康にいい	43	15.0%
手に入れにくい	5	1.7%
価格が高い	71	24.8%
形や大きさが不揃い	3	1.0%
虫食いや汚れが気になる	14	4.9%
賞味期限が短い／傷みやすい	3	1.0%
未回答	3	1.0%
合計	286	



（13）食品を購入する際に最も重視すること（選択式）

回答者の食品を購入する際に最も重視することは、「国産」が 26.9%で最も多く、続いて「価格」が 24.5%、「安全性」が 16.4%、「鮮度」が 10.5%であった。

項目	回答数	割合
価格	70	24.5%
国産	77	26.9%
丹波市産	11	3.8%
銘柄/ブランド	4	1.4%
鮮度	30	10.5%
安全性	47	16.4%
味	9	3.1%
見た目	3	1.0%
いつでも買える	2	0.7%
体に良い	10	3.5%
環境への配慮	4	1.4%
賞味期限	16	5.6%
未回答	3	1.0%
合計	286	



(14) その他ご意見等ございましたらお聞かせください（自由記述）

No.	項目
1	有機食品やオーガニックのものが、もっと手軽に購入できるしくみがあればいいなと思う。
2	給食へのオーガニック食材の導入を求めている意見がありますが、その機運が市全体に広がっていないのでまだまだ時期尚早です。仮に実施したとしても、一部の人のみの利益になるのではないでしょうか？まずは地場産のものからだと思います。
3	有機野菜は体に良いと思うが、固くて美味しくなかったり、手入れせず草がボーボーで病気になったり、虫が湧いている畑などをみると、レベルの差があるなぁと思う。 家庭菜園レベルの野菜が、有機野菜というだけで高値がつけられていることも多い。 買う側も、しっかり見定めなければと思う。
4	有機野菜の何が良いのかが分かりません。今食べているものも美味しいし、自家製野菜も多く、安心です。
5	有機農業を推進するのであれば放置竹林の整備を兼ねて竹チッパーを導入し竹パウダーを頒布してはどうか。竹チップは有機肥料としての効用が非常に高く、土壌改良にも極めて優れた効果を発揮し、即効性がありながら長期間の肥効が認められており、丹波篠山市、三田市、但馬地域でも積極的に利用されているが丹波市はなぜ利用に向けて動き出さないのか。放置竹林の整備と肥料調達と有機農業の推進と一石三鳥の効果があるからこそ全国的に取組まれている事業であると思うが対策がたいへん遅れていると言いたい。
6	こども園にこそ毎日の給食を有機にして欲しいです。 取組をされている他府県の方が魅力に感じます。
7	有機農法が良いのは理解するところではあるが、兼業農家には労力的にハードルが高く現時点では取組む意向はない。現在の有機農業拡大路線は国の性急な政策に踊らされている面もあるのではないか。いきなり有機への転換ではなく、まず減農薬について議論を重ねる必要もある。現在の有機栽培の多くは雑草が生い茂っている現状が多く、景観的にどうかと思わせる。（栽培者の意識の問題と思うがそういったイメージが定着している感がある）有機栽培の普及は今後の地域農業にとって必要と思うが、販路拡大が重要である。
8	手頃な価格で、有機野菜が購入したい。
9	スーパーマーケットだと、同一規格の農産物を大量に取扱いができないと販売してもらえない等の制約があるのかなと思う。丹波市なんだから、丹波市の農産物がたくさん陳列されればいいのになと思います。

10	味がおいしければ、有機にこだわる必要がない。食べたい人だけが、食べればよいと思う。 市島が有機で有名だが、住んでる多くの市島町民は有機とかは意識せず、普通に科学肥料や農薬を使っている。 市民の多くが望んでいないことを、市として取組むべきか。 まず減農とか、耕作放棄地の解消を取組むべきであって、一気に有機などという手間のかかる野菜を作る必要はない。 有機は、手間がかかり農業者１人当たりの耕作面積も少ない。（野菜では１ヘクタールが限度では。） まずは、耕作放棄地の解消や、集団経営による特産化に努めるべきでは。
11	農林水産省やメディアにより有機野菜をありがたがる風潮が形成されていますが必ずしも私は有機農業に好意的ではありません。 農産物の販売価格が一般のものと比べて高くなってしまいますし見た目も悪く虫に食べられている恐れもあるので私は積極的に買いません。生産者にはコストを強いるだけです。なにより病害虫への抵抗力が弱くなるデメリットが私は気になります。
12	政府の方針が大きく有機農業に向いているので、現実的に生産者や消費者双方の意識改革が必要になります。丹波市には全国でも有機の里として認知度の高い市島町を中心に苦労された生産者も近くに多く、先輩のやり方を学ぶには最適地です。研究会もあり意識的には非常に高い地の利を生かし発信地としてもっと PR 補助や新規就農者への応援を行うべきだ。世界の先進地にしたい。
13	有機とあると安心安全だとは思うのですが、実際のところ有機でない物との差がどれぐらいなのかが分からないので、価格差を優先しています。そのあたりをもっと分かりやすくしてもらえると嬉しいです。
14	環境負荷が低いことや安全性、健康によい等メリットは認識しているつもり。しかしそれだけに高価格。生活費を考えるとちょっと購入頻度が落ちる結果となる。銘柄でなくても、移送コストの低い地元産で、不揃いの品を庶民価格で売る等の工夫をぜひお願いしたい。そういった工夫（実践）をしながら、有機食品への周知度を上げて行ってはどうか？
15	良いことは分かるが軽く言えるほど身近な野菜ではない
16	丹波市がもっと住みやすい街になるといいです。買い物施設や交通機関や医療。
17	丹波市がオーガニック目指さずして なにを目指しますか 潜在能力の可能性を伸ばしましょう
18	選択が一つしか出来ないので正しく答えられませんでした。

	古くからの農家さんは農薬を使うことに抵抗の少ない方が多いように思います。 市全体の取組みとしてもっと有機や現農薬の農産物を作るように指導や勉強会などを開いていただけるとどこで何を買っても安心して食べることができるようになると思います。
19	子供に体に良い物を…と考えていた頃は市島の直売所まで行っていました。しかし柏原からは子連れで度々行くには遠く、また金額もスーパーで買う方が安いためやめてしまいました。 形は気にしないので、近所で安く手に入るなら是非購入したいです。 また子供のアトピーなど皮膚トラブルが増える中、有機野菜や綺麗な水を売りにできれば、市外からの入居者も増えるのではないかと思います。
20	不要な化学物質や不要な有機物の添加をされていない農産物をできる限り、調べて購入したいので、生産者の考えや栽培方法、生育環境を知りたい。
21	市内の消費者が入手しやすい販売方法の確立。 学校給食に有機野菜や不揃いな食品を取り入れる。
22	回答の選択肢が乏しい。 アンケートを求める前にもう少し勉強してください。 市長を始め市職員の有機農業、自然農法等を含め農業全般に対する意識の低さを強く感じる。
23	有機野菜は体にもいいのでとても良いものだという認識はありますが、有機栽培は周辺の有機栽培をしていない農家の栽培環境への影響（逆もありますが）もありますので、栽培方法の違う農家間の相互理解について考慮が必要ではないかと考えます。
24	地元の有機食品をもっとスーパーなどでも買えるようになるといいなと思います。また、現状だと丹波市の有機野菜といえば同じような農家さんの名前ばかり目にしますが、販路なども含め、色んな方が丹波市で有機農法をずっと続けていけるような生産者さんへの支援も手厚いといいんだろうなと思います。
25	未来のある子ども達の為に、学校、幼稚園等をオーガニック給食にして欲しい。
26	野菜の多くは自分の畑で作っていますので、多少農薬類を使用してますが、減農薬栽培と自負していますしこれもまたオーガニック食品と思って美味しく頂いています。

27	オーガニックは、一般農法と比較しコストが高いことが明白であり、英国においては、オーガニックが一般農法より栄養学的優位性があると認められていないことから、学校給食等の公向けではなく、あくまで個人の趣味趣向の範囲で使用されるべきと考えます。
28	アンケートに関して１つしか選択できないのは難しい。自分でも作るし購入もする。 現在の世の中で、もっともっと丹波市の農業が盛んになるよう望みます。
29	国が指定する農薬の基準量を守って使用しているのに、なぜここまで言われるのか理解ができない。生産者は安全で安心できる作物を提供している。有機農産物を使うことが安全だという基準は何なのか。農薬を基準量使ってなぜダメなのか。国が認めているのになぜいけないのか。 有機農産物を学校給食で使うことによって、給食費が上がることはきちんと説明しているのか。最初は市が今の給食費との差額を負担するだろうが、丹波市は何年か経つとすぐに手放しをすることがよくある。その際に負担をさせられるのは納得がいかない。 そして有機で作る農産物を使用すると病害虫が完全に処理することができない。その際に保護者から苦情が出ることは考えているのか。 給食センターは有機農産物を持ち込む農家に、絶対に病害虫のない物を持ち込むように指導ができるのか。 全てを考えて今と同じ料金で同じ物を市民に提供するのであれば納得する。 そういった先を見据えた考えを教えていただきたい。
30	日本の農薬について 身体への影響について正しい理解を得たい。
31	有機、オーガニック信仰の方を否定はしませんが、普段コンビニでサラダを買うレベルの者からすると正直、どうでもいい感じです。ただ、有機を売りにされているレストランなどは、やはりそれを目的に行くこともありますので、必要だと思いますが。
32	丹波市で多くの有機野菜を育ててほしいです。農薬をまくと害が心配です。孫や子どもへの影響も考え、オーガニック給食を求めます。
33	「有機」であるということが必ずしも有益だとは思いません。 生産者の思いがあり、現実があり、消費者の目的がある。 「有機である」よりも、双方が豊かであるところに重点を置いて欲しい。
34	有機だけでは、食生活が成り立たない。 家計が持たない。

	有機栽培が必ずしも環境にやさしいとは言えない。収穫量に対するチッ素、アンモニアの放出量は慣行農業の方が少ないと聞いている。どちらも良い所を活かした農法が良いのでは無いでしょうか？
35	離農の増加や農家の高齢化などが進んでおり、有機農法より手間がかからない慣行農法ですら継続が難しい状況になり、耕作放棄地が増加したり、耕作地を太陽光発電へ転用することが増加したりするのではと危惧しています。 有機農法を広く取り入れることで環境への配慮を行い、それをブランド化することも農業振興に繋がるかもしれませんが、手間をかけずともより高価で販売できる農業を目指したり、兼業農家、高齢農家への支援を充実させたりすることも重要かと思います。
36	有機は個人の嗜好の話で強要されるものではありません。一部の宗教に取り憑かれたような人達の主張を聞いて、過度に有機の取組に対し税金を投入するのはやめてほしいです。有機野菜を食べたい人は食べたらいいし、そこまで有機にこだわらない人は一般的な野菜でいいと思います。なぜ、そこに税金を使わないといけないのか本当によくわからないですし、その偏った人達の相手をしておられる議員がいることにもビックリします。もっとしっかりして下さい。
37	有機農業の促進を今後もお願いします
38	必ずしも、有機＝安心安全ではない。そのあたりを消費者は正しく理解しているのか。正しい知識の取得、それに向けた普及啓発をしっかりとやってほしい。
39	有機やオーガニックの言葉のイメージが先行して本当にいいものかは、分からない。もっと普段食べている農産物や丹波市産の物を大事にしていく方が現実的で良いと思う。
40	肥料が高くなったから野菜等高い
41	有機野菜やオーガニックも良いと思いますが　生産者の負担を減らすためにコウノトリ米のように丹波市独自の基準を作り ブランディングして欲しい
42	回答しましたが、野菜関係はほぼすべて自らの畑で栽培したものを食べています。化学合成農薬は使いませんが、苗植えの前段階で、一部化学肥料を使っているので、今回の回答となりました。自ら食すものなので、出来る限り、化学合成農薬や化学肥料を使用しないように努めています。 ※スーパーで野菜を購入することは稀です。
43	父が家で有機で野菜の栽培をしているが、有機 JAS の認証を取得しておらず、有機 JAS の認証すら知らない実情である。

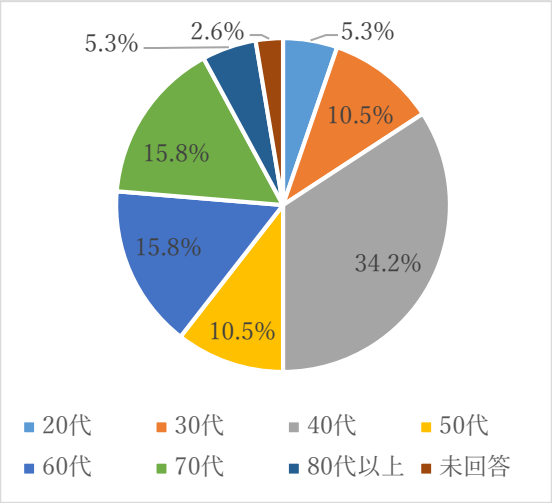
44	家族が有機関連のものを購入している。無農薬、減農薬、オーガニック、有機等、いろいろ言葉がありますが、内容をよく分かっていない。また、有機等の野菜とそれ以外の野菜（普通の野菜）では、身体への影響でどのような違いがあるのか分からない。環境に良さそう、健康に良さそうみたいなイメージは何となくわかりますが、本当にそうなのかということが分からない。良いものである理由を具体的に教えてほしい。

３．調査結果（生産者）

（１）回答者の年齢（選択式）

回答者の年齢は、「40 代」が 34.2%で最も多く、続いて「60 代」「70 代」が 15.8%であった。

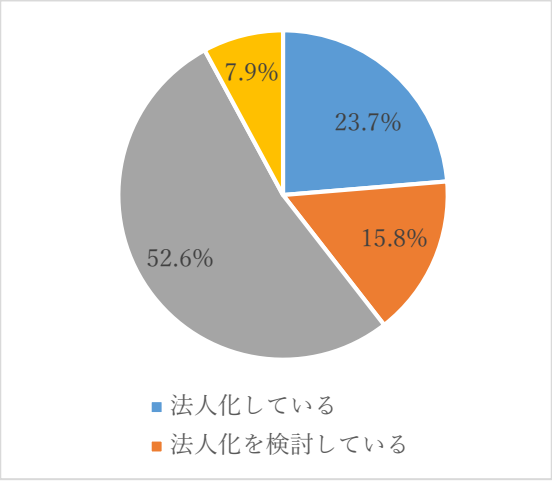
項目	回答数	割合
20代	2	5.3%
30代	4	10.5%
40代	13	34.2%
50代	4	10.5%
60代	6	15.8%
70代	6	15.8%
80代以上	2	5.3%
未回答	1	2.6%
合計	38	



（２）回答者の経営形態（選択式）

回答者の経営形態は、「家族経営を続ける」が 52.6%で最も多く、続いて「法人化している」が 23.7%、「法人化を検討している」が 15.8%であった。

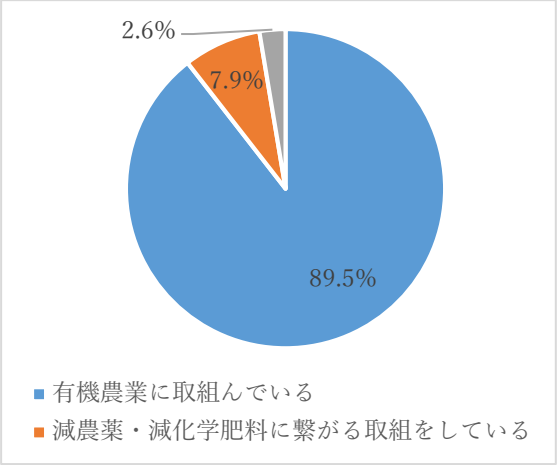
項目	回答数	割合
法人化している	9	23.7%
法人化を検討している	6	15.8%
家族経営を続ける	20	52.6%
その他	3	7.9%
合計	38	



（３）回答者の化学合成農薬や化学肥料の低減に向けた取組（選択式）

回答者の取組は、「有機農業に取組んでいる」が 89.5%で最も多く、続いて「減農薬・減化学肥料に繋がる取組をしている」が 7.9%であった。

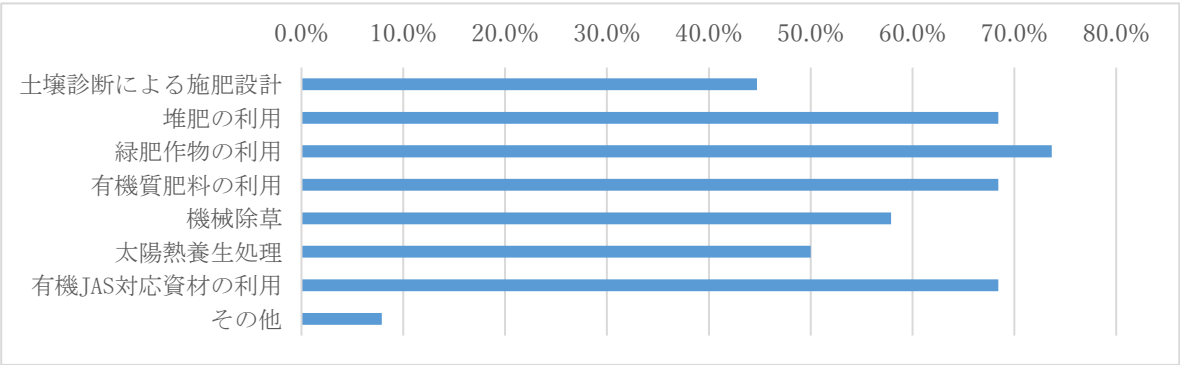
項目	回答数	割合
有機農業に取組んでいる	34	89.5%
減農薬・減化学肥料に繋がる取組をしている	3	7.9%
取組を行っていない	1	2.6%
合計	38	



（４）回答者の実践する取組（複数選択式）

回答者の実践する取組は、「緑肥作物の利用」が 73.7%で最も多く、続いて「堆肥の利用」「有機質肥料の利用」「有機 JAS 対応資材の利用」が 68.4%であった。

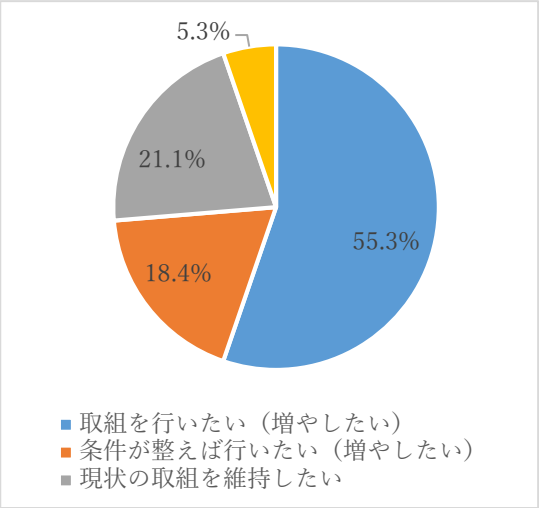
項目	回答数	割合
土壌診断による施肥設計	17	44.7%
堆肥の利用	26	68.4%
緑肥作物の利用	28	73.7%
有機質肥料の利用	26	68.4%
機械除草	22	57.9%
太陽熱養生処理	19	50.0%
有機JAS対応資材の利用	26	68.4%
その他	3	7.9%



（５）今後の有機農業の取組意向について（選択式）

回答者の有機農業の取組意向は、「取組を行いたい（増やしたい）」が 55.3％で最も多く、続いて「現状の取組を維持したい」が 21.21％であった。

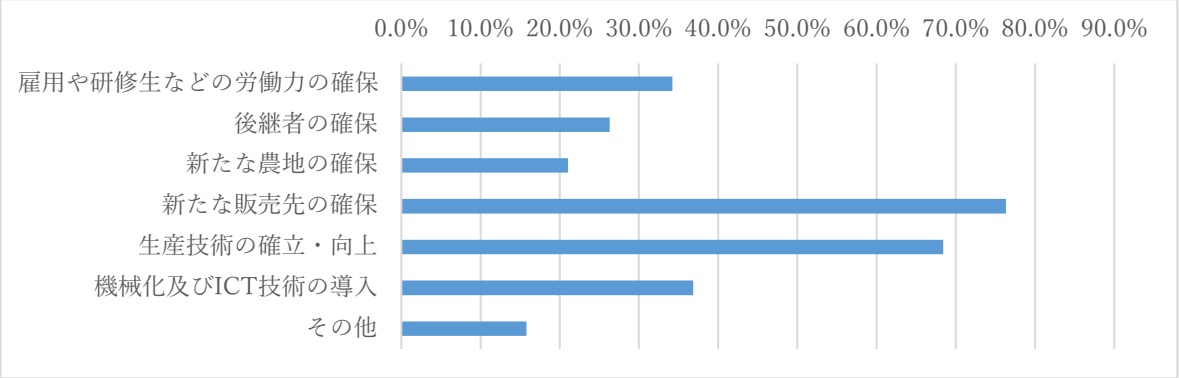
項目	回答数	割合
取組を行いたい（増やしたい）	21	55.3%
条件が整えば行いたい（増やしたい）	7	18.4%
現状の取組を維持したい	8	21.1%
有機農業の取組を減らしたい	2	5.3%
合計	38	



（６）有機農業の取組を増やすためには何が必要と考えること（複数選択式）

回答者が有機農業の取組を増やすために必要だと考えているものは、「新たな販売先の確保」が 76.3％で最も多く、続いて「生産技術の確立・向上」が 68.4％、「機械化及び ICT 技術の導入」が 36.8％であった。

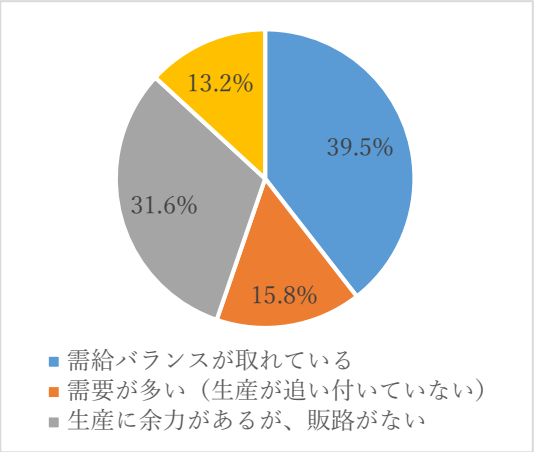
項目	回答数	割合
雇用や研修生などの労働力の確保	13	34.2%
後継者の確保	10	26.3%
新たな農地の確保	8	21.1%
新たな販売先の確保	29	76.3%
生産技術の確立・向上	26	68.4%
機械化及びICT技術の導入	14	36.8%
その他	6	15.8%



（７）回答者の販路先と需要と供給のバランスについて（選択式）

回答者の販売先と需要と供給のバランスは、「需給のバランスが取れている」が 39.5%で最も多く、続いて「生産に余力があるが、販路がない」が 31.6%、「需要が多い（生産が追い付いていない）」が 15.8%であった。

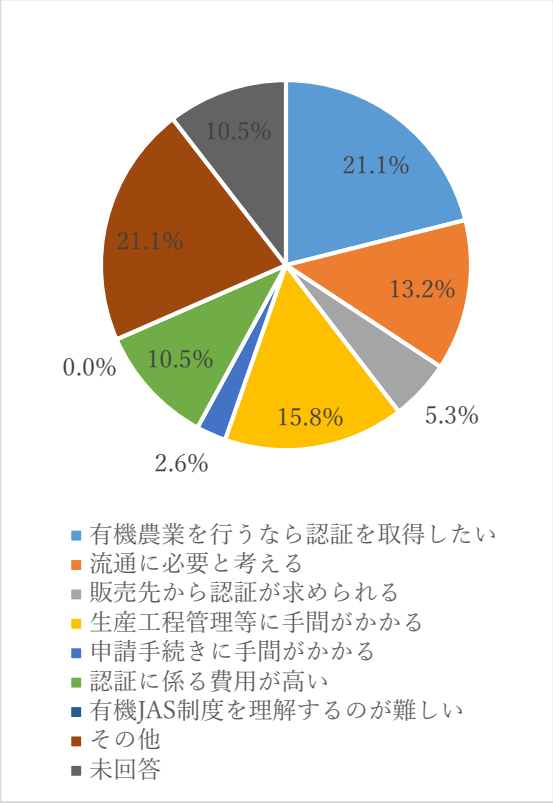
項目	回答数	割合
需給バランスが取れている	15	39.5%
需要が多い（生産が追い付いていない）	6	15.8%
生産に余力があるが、販路がない	12	31.6%
未回答	5	13.2%
合計	38	



（８）回答者の有機 JAS 認証に対する考えに一番合うもの（選択式）

回答者の有機 JAS 認証に対する考えに一番合うものは、「有機農業を行うなら認証を取得したい」が 21.1%で最も多く、「生産工程管理等に手間がかかる」が 15.8%、「流通に必要と考える」が 13.2%であった。

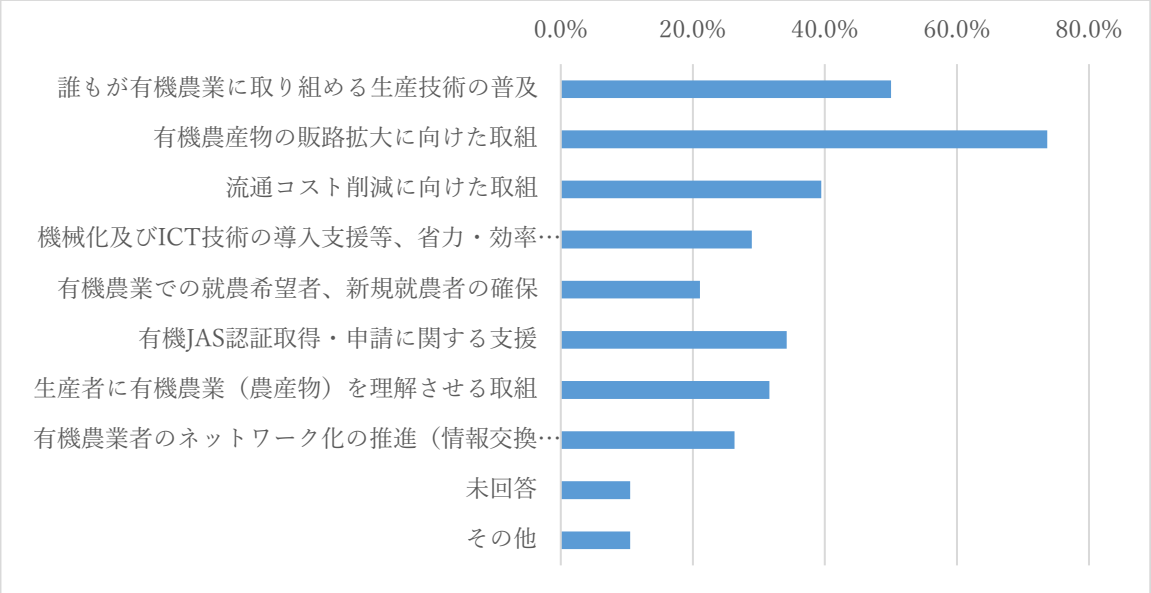
項目	回答数	割合
有機農業を行うなら認証を取得したい	8	21.1%
流通に必要と考える	5	13.2%
販売先から認証が求められる	2	5.3%
生産工程管理等に手間がかかる	6	15.8%
申請手続きに手間がかかる	1	2.6%
認証に係る費用が高い	4	10.5%
有機JAS制度を理解するのが難しい	0	0.0%
その他	8	21.1%
未回答	4	10.5%
合計	38	



（９）有機農業の推進に必要と考える方策（複数選択式）

回答者の有機農業の推進に向けてどのような方策が必要だと考えるかについて、「有機農産物の販路拡大に向けた取組」が 73.7%で最も多く、「誰もが有機農業に取組める生産技術の普及」が 50.0%、「流通コスト削減に向けた取組」が 39.5%であった。

項目	回答数	割合
誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及	19	50.0%
有機農産物の販路拡大に向けた取組	28	73.7%
流通コスト削減に向けた取組	15	39.5%
機械化及びICT技術の導入支援等、省力・効率化に向けた取組	11	28.9%
有機農業での就農希望者、新規就農者の確保	8	21.1%
有機JAS認証取得・申請に関する支援	13	34.2%
生産者が有機農業（農産物）を理解する取組	12	31.6%
有機農業者のネットワーク化の推進（情報交換できる関係構築）	10	26.3%
未回答	4	10.5%
その他	4	10.5%
合計	38	



（10）有機農業に取組む上での課題、要望等について（自由記述）

№.	項目
1	丹波市には、有機農業実践者が多数、古くからみられるが進展が見られない 豊岡市の取組を見ると行政が先導して推進がみられる。丹波市より取組が遅いにもかかわらず発展が見られる。 有機農業に地域ぐるみで取組める産地形成を農業形態が変革する今日、行政の手腕を望みたい。
2	水田を完全に畑地化する事。 市内に野菜の加工工場、企業を誘致して欲しい。 人農地プランを行政が積極的に進めて欲しい。
3	有機農業に限った話ではないですが獣による食害が年々酷くなってきています。 タヌキやアライグマなど小動物になると、電気柵でも被害を防げません。害が酷くて作付け出来ない畑もあります。 動物もよく分かるのか、農薬を撒いてない畑から狙うようです。収穫直前の畑を荒らされると、本当に嫌になります。 捕獲者への補助金を増やすなど、もっと積極的な駆除を進めて欲しいとおもます。
4	老朽化したインフラの整備 獣害対策 流通コスト削減
5	新規就農者が定着できるためには、何より出口戦略（販路）が不可欠ですが、直売所は競合がきびしく、オーガニックで作っても単価を上げにくいです。オーガニックを推進してくならば、新規就農者の販路支援が必要だと思います。

6	前後の食料難のような一人の農家の多量生産を一旦リセットし、少量からでも取組めるようにする。 もちろん大型機械のある大農家や法人の農業法人は今のままでも良いと思う。 でも生き詰まっているのであれば有機や自然農を目指すべき。 秀品以外はＢ品あるいは廃棄や堆肥にするのではなく加工に力を入れたらロスは減って農業だけでも生活できるようになるのでは？ 農家は商売人でもある方が有利。 大事なのは持続サスティナブル！
7	安心・安全な農産物を消費者に提供したい思いは強いが有機 JAS 農産物に対する価値が価格に反映していないので消費者に PR していく必要があるのではないか
8	有機農業に対する一般の人の理解が非常に低いため、有機農業にかかるコストへの理解が中々えられないなど経済的に苦しい
9	移住者が有機農業にすごく興味をもっているので取組める生産技術の普及及び資金的な支援をしてほしい 有機に関する理解は都会の方が関心が高く有機農業を取組たい希望者が多い 市内に有機肥料を取り扱う店があればいいと思う。例えば、JA でも取り扱ってほしい。 市と JA がコラボして有機農業技術に詳しい人材を育成して、丹波有機農業を盛り上げてほしい（相談機能）
10	有機 JAS 制度の農産物は、手間（費用）がかかる割に価格（効果）が望めない
11	有機 JAS 認証を取得したいと思っていますが、就農一年目で栽培や出荷に追われ申請書の作成がなかなか進みません。JAS 認証取得申請に向けての個人的な相談会、具体的な勉強会が開催されるといいなと思います。

12	先に述べたように現在の環境の変化（災害・天候の不順）日本国民の健康が害されている現在、又、食料の自給率 2021 年でカロリーで37%すべて丹波の市民が無関心である。この事は、国の 30 年間現状を把握できていない政策を続け自治体もようやく”みどりの食料システム戦略”が世界で騒ぎ出し、ようやく腰を上げたがヨーロッパより 20 年遅れの計画。このギャップを埋めるには自治体の丹波市が兵庫県下で多いに市の予算をできるだけある。韓国では、小学校の給食は全て有機の食料でまかなっているが、丹波ではようやく今年の２学期から実行できるようになった。喜ばしい事で、当社では生産する 2/3 の量を提供する契約をしました。一部の人が動いても丹波市民全員がこの政府のまた世界の潮流を理解して自治体が費用を確保してやるべきです。我々はここ３～５年が大切な期間ですので協力いたします。
13	有機農業にとらわれずに、減農薬・減化学肥料の取組などを支援する制度があるとありがたい（例えば、減農薬につながる設備投資への助成。減農薬・減化学肥料の取組を継続した場合のインセンティブ制度、など）。
14	現在、丹波でどのような農家がどのような方法で有機農業に取組んでいるか、具体的な情報があれば、自分の進むべき有機農業の参考になる！！という意見をもらっているので、そういう事例発表的な場を設けてはどうか。
15	草退治の技術があれば取組易いです。
16	価格が安定して、販路があれば増やしていきたい。
17	農地の集約 人員の確保
18	現状の出荷先は有機農産物に特化した販売先が無いため、有機 JAS の取得には至っていません。 そのため、一般的の価格で販売しています。 食味での差別化は出来ていると思いますが。 有機農産物の丹波市内、または、市外への販売ルートがあれば有機 JAS の取得を考えたいと思っています。 有機の里として生産だけでなく、販売面においても支援頂けると取組やすいと感じています。
19	有機の価格で買い取ってくれる販路が少ないのが課題
20	消費者の有機農産物への意識向上は必要。地球温暖化や海外紛争のサプライチェーンと農業が密接であり、未来に向けての取組として有機農業の普及の必要性がある事などより身近な情報として知る機会が増える環境のある街づくりに期待します。

21	JAにも理解をしてもらう。
22	有機農業の現在時点での技術では特に水稲栽培には多くの水を使うが丹波は豊富に水資源が有るわけではない。どうしても地域差が生まれるのではないか。 また、人手不足であるなか事務業務の負担が増える事も懸念される。